

2018

9  
月号

ぶうげん  
びりあ  
No.301



## 防災について考える 一日常の集団行動や教育活動が子供の命を守る一

校長 横山 優美

42日間の長い夏休みが終わり、楽しい思い出をいっぱい抱え子供たちが、学校へ帰ってきました。今年も各地から猛暑日のニュースが伝えられる暑い夏となりましたが、大きな事故やけが、病気の報告等なく、安全に子供たちが生活できましたのは、保護者や地域の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。一段とたくましくなり元気いっぱいの子供たちと始業式に再会でき、大変うれしく思いました。

今年の夏は40度越えの猛暑、ゲリラ豪雨、集中豪雨、落雷、そして台風の大量発生が話題になりました。太平洋の南鳥島近海では28日、台風21号が発生し、8月に入って9個目の台風です。12~16日には15~19号まで5日連続で発生しました。異常気象が続き、今までの想定をはるかに超えたことが起こってきているので、災害に対して十分の備えが必要です。

9月1日は「防災の日」です。今から95年前、大正12年関東大震災が起こった日です。日本は地震の多い地域にあります。「阪神淡路大震災」「東日本大震災」、その後「熊本地震」、「大阪北部地震」等多くの地震が起こっています。地震だけではなく、先日の「西日本豪雨」等風水害にも気を付けていかなければなりません。

学校では、防災教育の一環として避難訓練や村とともに行う防災訓練等を行っています。また、総合的な学習の時間では「安全マップ」や「防災マップ」を作成したり、家庭科で「防災食」を調理したり防災意識を高め、いざというときに備えて行動できるようにしています。さらに、新学習指導要領では、指導内容として、自然災害が取り上げられ、防災教育が重視されてきています。社会全体で、防災対策について考えていくだけでなく、実際に行動していかなければなりません。

防災対策として三助が言われています。まずは、自分で自分の命を守る「自助」、そして家族や地域コミュニティでともに助け合う「共助」さらに、国や都、村などの行政による助けや支援である「公助」の3つです。災害発生時、自分の命を守る「自助」ができた後、「公助」を受けるのには時間がかかる場合があります。そうなると大事になってくることは「共助」です。地域コミュニティで助け合うことが必要になります。実際に災害が起きた時、日頃からの連携は大きな力です。いざという時、地域の皆さんは子供たちを全力で守ってください。学校でも防災教育を通して、共助の気持ちで自分たちにできること、地域のためにできることを考えて行動できる子供を育てていきます。

しかし、どのような対策を立てていても、訓練を重ねても事件や事故、災害は私たちの想定をはるかに超えたものになってきているのが現状です。そのような中で大切なことは、日常生活で行っていることを真摯に整然と取り組むことを重ねていくことだと考えます。話す人の方を見て静かに聞く、全校集会などでの体育館への入退場を静かに速やかに行う、校外学習の時などリーダーを先頭に一列に並んで歩くなど、当たり前のことをいっつもしっかりできることが自分の身を守ることに繋がります。

災害等から身を守るためには、訓練や学習も当然必要なことですが、その上で、毎日の生活の中に定着しているこうした集団生活上のよき習慣や地域との関係づくり・信頼関係を意味づけて、地道に続けていくことが重要であると認識して今後も取り組んでいきたいと思っています。

2学期も保護者・地域の皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

無人島への校外学習、少人数での学芸会、イルカと泳ぐ移動教室…本校には、母島ならではの学校行事がたくさんありますが、その中でも父母学習交流会は子供たちにとっても、私たち教員にとっても、特別な行事です。4・5・6年生合わせてもたったの14名の子供たちが、小笠原小学校で一日過ごすのですから、楽しみより不安や緊張のほうが大きいかも知れません。

今年度は小中別々の実施のため、6年生にリーダーとしての自覚を促しつつ、準備を進めました。人数調整が必要な場面では、4・5年生が自主的に譲り、心強い姿が見られました。



日曜日にも関わらず、多くの方に見送られ、無事に父島へと出発です。到着してすぐ、学年ごとに社会科見学に出発しました。夜は、6年生企画のレク。いつもお世話になっているキャベツビーチさんのおいしい食事と楽しいゲームで、みんなの笑顔があふれました。

最後のミーティングで、翌日の開会式のリハーサルをすることにしました。100人を越える人々の前で一人一人が堂々とあいさつをすることで、自信をもって「母島小学校の子」として1日過ごしてほしい、と考えたからです。「聞こえないよ」「下向かない」「もっとゆっくり！」…何度も練習し、全員が合格しました。

2日目。小笠原小での開校式です。全校児童と先生方が体育館に集まりました。たくさんの見つめる目、ざわめき…母島小学校の子供たちの日常にはない光景です。いよいよ一人一人のあいさつです。私たち教員も、緊張しながら見守ります。大きく息を吸って、一歩前へ。6年生から一人ずつ大きな声でしっかりとしゃべり始めました。子供たちの緊張感に満ちた横顔と、一人終わるごとに大きく頷いてうれしそうな表情の担任たちを見て、今年もきっと良い交流会になることを確信しました。

社会科見学や授業の様子が、ブログにアップしてありますので、ぜひご覧ください。星の観察会が天候不良で中止になったのが残念でしたが、それ以外はどの活動も楽しく充実したものになりました。

帰りの二見港では、小笠原小の子供たちや先生方、母島小中出身の懐かしい先輩たち（宿にも会いにきてくれました）が大勢見送りに来てくださいました。船が大変揺れることが予想されたため、酔いやすい子供たちは船室で横になっていたのですが、「見送りにきてくれてるよ」と声をかけると全員が窓にはりつくようにして外を見て、「黄色い服の子、〇〇ちゃんっていうんだよ。友達になったんだ」「まだ走って手をふってくれてる。うれしい」「母島に来たら、歓迎しようね」と名残惜しそうにつぶやく子供たちに、胸が熱くなりました。

小笠原小学校の皆さん、父島でお世話になった皆さん、母島で送り出してくださった皆さんのご協力のもと、この行事を無事に終えることができました。貴重な経験や人とのつながりが、子供たちのこれからの日々の糧になることと信じています。



運動会、一年生の平島移動教室に期末考査と、忙しく駆け抜けた一学期の締め括りの行事、父母学習交流会。考査が終わり、夏休み直前の日差しの厳しい中、生徒8名は小笠原中学校へと行って来ました。二泊三日の行程ですが、小笠原中学校の生徒と交流がもてるのは、部活動に参加する生徒を除いて実質一日程度。今年度は水泳記録会に替わる新たな試みとして黒板アート甲子園を企画しましたが、その一日の中、精一杯の交流をもつことができるのだろうか、と、不安半分期待半分、で父島へと向かいました。



当日、ははしま丸が到着したその足で小笠原中学校に向かい、対面式で自己紹介を行いました。生徒8人と対するのは、小笠原中学の生徒約50名。雰囲気で気圧されながらも、事前の練習の成果か、みんな堂々とした姿を見ることができました。それぞれの自己紹介を頑張る姿に、思わず心の中で「がんばれ！」と力が入ってしまいました。

二日目はいよいよ、小笠原中学校での合同授業です。母島中では現在、多くても生徒4名での活動、月に一回の合同道徳ですら、最大で8人の中でしか、議論をする授業を行うことができません。しかし今回授業をともにするのは、一学年一クラス合計、約20名。母島に比べれば、最小5倍、最大20倍の人数での授業は、多種多様な意見が出てきます。その中で自分の意見を主張する緊張感というのは、なかなか母島では味わえない経験です。高校、あるいはその先、社会に出て進路選択をする中で、その雰囲気を味わうだけでも、とても有意義な経験になったのではと思います。

午後からは今年から企画された新しい試み、黒板アート甲子園が行われました。私は記録係（写真撮影）担当として各班を巡回しましたが、どの班も、両校の生徒が和気あいあいと作業をしていました。「そこはこの色でお願いね!」「ここ、どうやって表現しよう?」それぞれ意見を交わしながら、一つの作品を完成させていきます。時間いっぱい、黒板のスペースに表現された作品は、どの班も素晴らしい出来栄で、完成させた生徒たちには、結果によらずどの子にも晴れやかな笑顔が浮かんでいました。

翌日、ははしま丸の出港には、早朝にもかかわらず、多くの先生方や生徒たち、小笠原高校の先輩方が見送りに来て下さいました。たった一日、短い時間の交流でしたが、それぞれの学年、あるいは部活動で、いい交流をもてたのではと思います。出迎え式での生徒たちのそれぞれの成果の発表、あるいはご家庭に帰って聞いた子どもたちの話から、いい経験をしたことが伝わったのではないのでしょうか。この父母交流が成功したのも、小笠原中学校の皆さんや父島でお世話になった皆さん、母島から見送り、出迎えてくれた皆さんのおかげです。たくさんの方に支えてもらって得たこの経験が、生徒たちの人生の、これからの糧になることを願っています。



## 9月の生活指導

### 生活目標

#### 「規則正しい学校生活を送ろう」

- ・自分の生活を見直そう。
- ・あいさつをして、気持ちのよい学校生活を送ろう。
- ・夏休みに取り組んだ学習の成果を発揮しよう。

### 安全指導 10日(月)

「地震・津波などの災害時における安全確保」が重点指導目標です。

地震・津波などの災害時に起こりうる危険性を考え、安全確保のために必要な事柄について指導します。また、災害時に自分でできること、協力してみんなのためにできることについて話し合い、いざというときに実行できるように指導します。

### 避難訓練 3日(月)

休み時間中に地震が発生した場合を想定した避難訓練を行います。

①放送の指示をよく聞いて指示通り動くこと②机の下にもぐるなど頭部の保護に努めること③安全な避難経路の確保などの安全かつ冷静な行動を身に付けさせます。

## 2学期の主な行事予定

- ◆10月14日(土)  
日曜学校公開・道徳授業地区公開講座  
※振替休業日10月15日(月)
- ◆学芸会  
11月3日(土)文化の日  
※振替休業日11月5日(月)
- ◆ロードレース大会  
12月7日(金)
- ◆終業式  
12月25日(火)



## 硫黄島訪島事業について

9月15日(土)～17日(月)に中学2年生が硫黄島に訪島します。合同慰霊祭に参加し、平和や、命について考えてきます。日程や持ち物などの詳しい説明会を9月6日(木)16:00～に行います。ご参加をよろしくお願いいたします。

## 工事のお知らせ

道路排水改良のため、B線の体育館入り口付近の側溝の工事です。

期間は9月3日～15日です。学校でも登下校の際、事故にあわないように指導します。ご家庭でもご協力よろしくお願いいたします。

担当：小学校副校長

## 9月の主な行事予定

			16	日	PTA プール開放日	
1	土		17	月	敬老の日 硫黄島訪島事業終 PTA プール開放日	
2	日		18	火	朝礼(保健指導) 振替休業日(中2)	
3	月	始業式 避難訓練 発育測定	19	水		
4	火	視力(全学年) あいさつ運動(始)	20	木		
5	水		21	金		
6	木	硫黄島訪島事業保護者説明会	22	土		
7	金		23	日	秋分の日	
8	土		24	月		
9	日		25	火	中朝礼 石門校外学習(中3)㊟	S C 在島 ↓
10	月	朝礼(安全指導) 石門校外学習(中3) あいさつ運(終)	26	水	色覚検査(小1・中1)	
11	火		27	木	交通安全教室(全)	
12	水		28	金	西浦校外学習(小3)	
13	木	プール納め(小)	29	土		
14	金	行事前検診(中2)	30	日		
15	土	硫黄島訪島事業始(中2)〈敬老の日の集い〉				